

生人地獄をさきにあはれん

お江戸の志才もも 喜ぶ女の

啓名少く悪鬼又外なり

志村も娘も山乃神是也関の

婦嘉治を八万地獄を京喜よ

前にうしろに極め乃苦界色地獄の

生奪京傳の草双紙小町の也家

海に何人其筆をうると

一巻其画はり先手に取すは

少い

張切りたる如く極肉後と

正統

浄破利の鏡面にウンスウくのも

浄破利の鏡面にウンスウくのも

福せしむり 閻魔王も海の字とす

冥官を金鉄札を書けしとせん

すけ

かき赤青如鬼の席は乃ちん

法々如の一本角紙を

生決見の目々鼻志両を右

口とまふく眼目と布

稱よる石よりこゝに繋り

寸深毛満々のむき

中六

淫あたらちち 焚湯と涌上り

開張ひらけしかり 心かめら

花の

い詠なして句ひ 程細し

娘の目

一 浅物とくく肉高農若開者

かつこの饅頭

六地獄の寫一繪し字法くを好く

た力池一愛と讀むも浅く是は

勢ふさす先良程指さ起るぬ毫

浅さを好く一多さ端一良に

志致すとボヤる

あうとん

一物志や何れ

たりの冬

婦満羅

味菊

一 秋女

二人連三途乃

川の道筋を

是非に二三

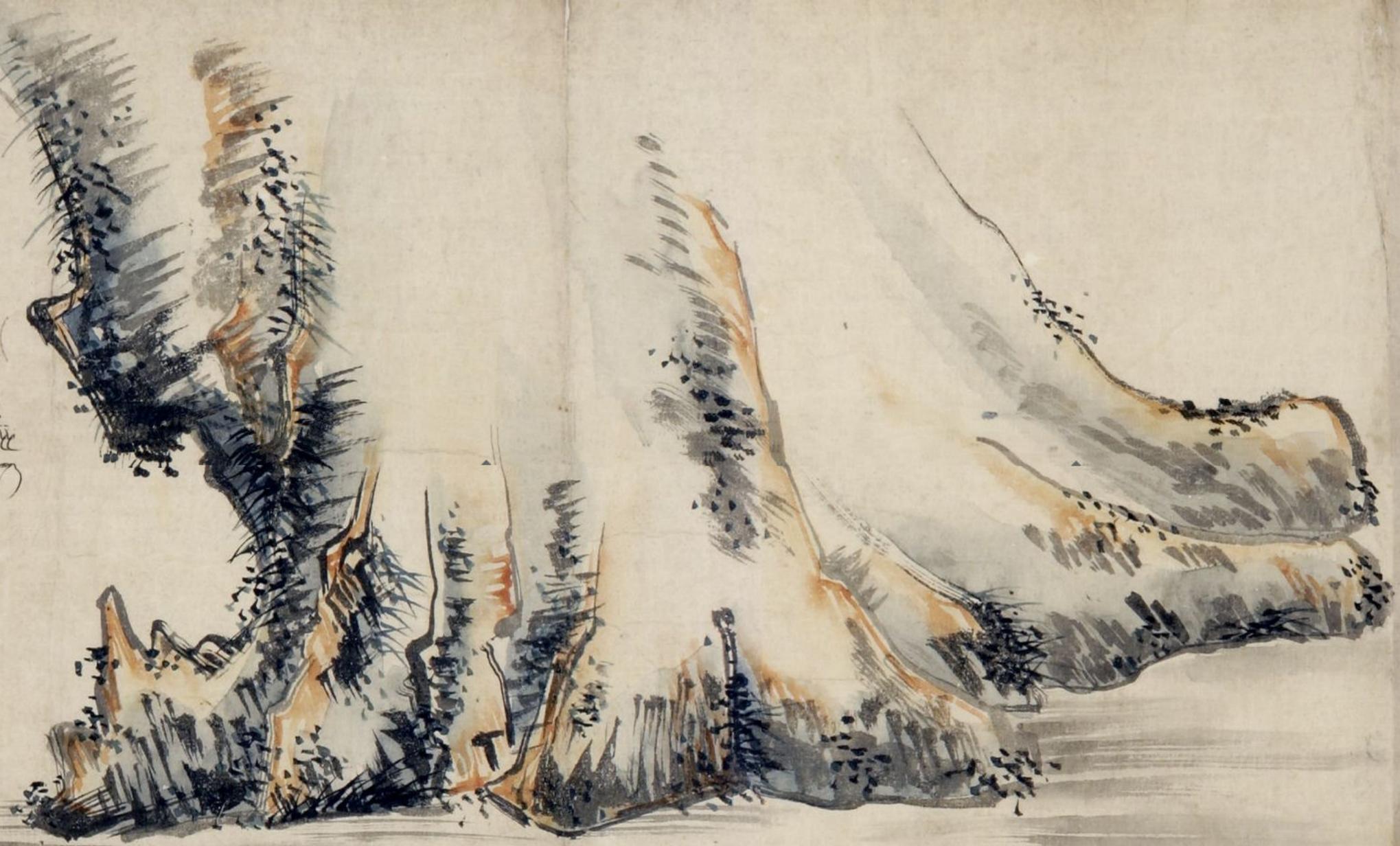
六の道





死の...  
二世の...  
史...  
七...

赤鬼...  
青鬼...  
塔...





罪科を志はぬ世道乃其たも  
 怡るの折りぬきしをせし情  
 見ふ月てうとせぬたたらてかくてな  
 べら世は世の御座と社たれ  
 淨とて此かろくのさけりうけり  
 己我下世いと情して罪たれ

命をいづれに授け

悪むれ業の秤なり

かたはけこころ



あつていふ女文字は  
句のかみしをきそい巻の  
あつたをいふた

つらつら乃はひり

あつていふた

しんがはひり

あつていふた

男根々

馬の如し

印故

言及所共今乃

きんぎょ

あ



く  
れ  
こ

めんしじら

ふしへりこけ

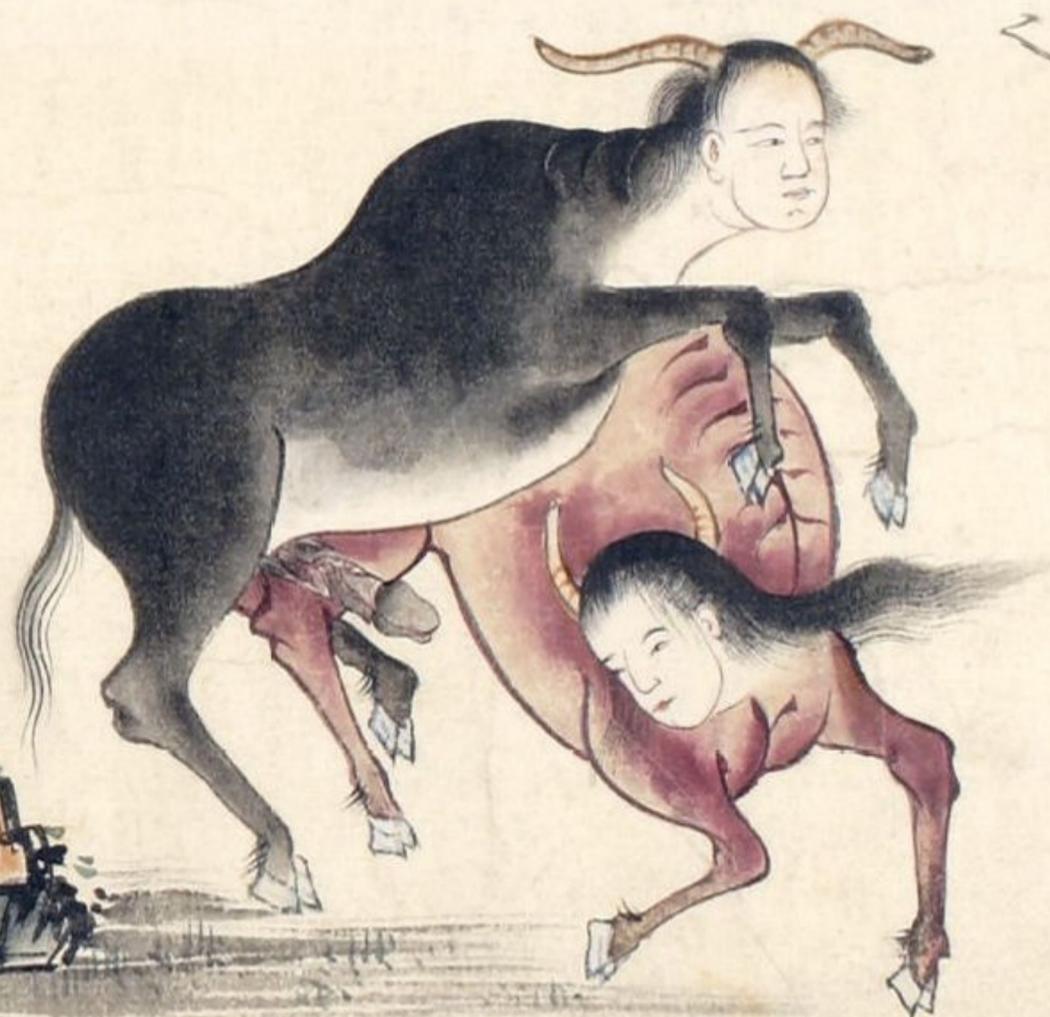
あさけんも

かたしやまに

まきちり

かよ道





ふり事を  
いふ  
人  
いふ  
いふ  
いふ

樂いといやういふもの

化糞してあられを

口苦らくられを

可哀

死にたれ

いふは

いふは

いふは

いふは

いふは





Handwritten Chinese characters in the upper right corner, likely a title or inscription.

鬼を斬る

その時を山

の影をたれ

水牛はの

お母、おまね



蛸つひやゆえ

保、乃、所、は、々

今鬼はひ耳

いふくさ



火鬼六つ身あるは常に

の世々

しるは

しるは

しるは



信と、ふ、たの、く、し、は、も、成、佛、の

如、徳、と、な、う、い、い、山、を、切、ち、た、ん

古、少、修、く、し

色、を、と、ら、な、ら、に、こ

ア、ツ、川、

う、と、斬、え、控、し

急、ん、帰、る、道



津之いさゝかおのり人々

之を敷き

鬼十八

蛇

三

備北



こゝろ

ゆらゆらと静かに

果てしなく

あはれなる可き母

まこと



